

「不黙」の秋

林 範彦 (副学長/総合文化グループ・教員)



はじめに

題名はレイチェル・カーソンの『沈黙の春』(1962年)からオマージュとしてつけたものであるが、奇しくもその出版から61年を経た今、人間の影響により地球環境の歪みが加速している。人間活動によりすでに地球の気温は当時から1.0度以上も上昇している。¹ノーベル化学賞(1995年)の学者クルツェンが広めた概念「人新世」の時代は、他の生物にとってますます生きにくくなったことを意味している。本稿では筆者の専門である記述言語学を離れ、素人ながら感じることをまとめたものである。

ミャンマーの禿山から

2012年、筆者はミャンマー東部のシャン州カローの山中を現地ガイドとともに歩いた。山中にあるパオ族の村を訪れるためであったが、途中見渡す限りの禿山に出会った(写真1)。これは現地で勝手に木が伐採されて外国に売られた跡だという。



写真1:ミャンマー・シャン州カローの山中にて
(2012年筆者撮影)

よく知られるように、日本もアジア各地から相当数木材を輸入している。このような形で伐採が続けられると、現地の植生はもちろん、あらゆる生態環境に甚大な影響が出ることは誰も想像がつかだろう。

南アフリカの水不足

ミャンマーの禿山から帰って6年後の2018年、筆者はある国際会議に出席するため、南アフリカのケープタウンを訪れる機会を得た。これまでアジア各地をはじめ、ヨーロッパやアメリカを訪れてきたが、アフリカ大陸は初めての経験で、いささか緊張していた。ただ、その緊張をさらに強めたのはケープタウン空港の荷物受け渡し所であった。

多くの空港でよく見る企業の広告が入るところに、“Don't

Waste a Drop! (一滴の水も無駄にするな!)"の標語が目立っている(写真2)。然り。この年の南アフリカは深刻な水不足に陥っており、もはや危機的な状況に陥っていたのである。



写真2:南アフリカ・ケープタウン空港にて
(2018年筆者撮影)

当時のCNNニュースを振り返ると、すでに2018年1月の時点でケープタウンは大旱魃に見舞われ、最大規模のダムでも地面がむき出しになるなどの状況となっていた。気候変動と急速な人口増加もこの水不足に拍車をかけていたようである。

水不足における市民生活への影響

実際に参加した国際会議の会場では、節水を呼びかけるポスターが掲げられていた(写真3)。これによれば、ケープタウン市民は1日に50Lまでの使用を求められている。具体的には1日に2Lの飲み水、6回のトイレ排水、90秒間のシャワー、料理用の水2Lなどが定められている。2019年度の東京都水道局の調べでは都民が1日214Lを使用している³ことを考えると、非常に厳しい節水要求となっていた。



写真3:節水を呼びかけるポスター
(ケープタウン市内、2018年筆者撮影)

WHO/UNICEF のデータ⁴によれば、地球上で現在 4 人に 1 人しか安全な飲水にアクセスできない。一方、日本では上記データによれば 76%-99%の人が安全な飲水にアクセスできる。したがって、日本に住む人で「水にアクセスできない」ということにピンとくる人はいないかもしれない。しかし、地球上の水分のうち、使える水はわずか 0.01%しかないのである⁵。

さらに、日本の食料自給率は 38%(カロリーベース)しかないこと⁶を思い返してほしい。つまり、多くの食料を輸入に頼っているわけである。その輸入先が早魃に見舞われると、途端に食料を生産できなくなり、その影響は直接日本の食の豊かさに跳ね返ってくるのである。

SDGs 第6の目標

さて、今回取り上げる SDGs の目標は「6: 安全な水とトイレを世界中に」である。各目標には周知の通りサブの目標が掲げられている。⁷ 例えば、「6-1」は「2030 年までにだれもが安全な水を、安い値段で利用できるようにする」、「6-4」では「2030 年までに、今よりもはるかに効率的に水を使えるようにし、淡水を持続可能な形で利用し、水不足で苦しむ人の数を大きく減らす」などである。

この目標が抱える課題は非常に重い。例えば、上記の WHO/UNICEF のデータではアフリカにおいては水インフラが十分に整備されていないために、ほとんどの人が安全な水にアクセスできていない国がいくつもあることがわかる。

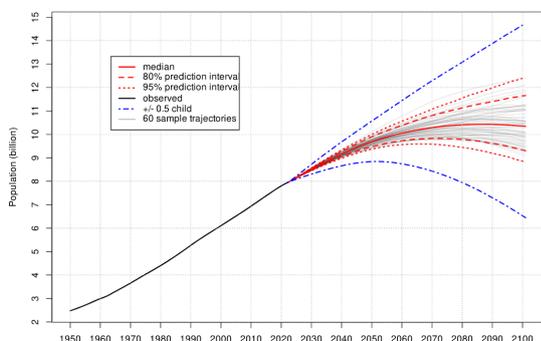


図 1: 国連人口推計⁸

すでに地球上の人口は 2022 年に 80 億に達した。国連の人口推計によれば、2050 年ごろまでに 100 億に達する可能性も示している。これは単純な計算であるが、現状と比較すると、あと 30 年で 20%も水を節約しなければならない。そして現在の水の不均衡な配分を考えれば、日本に住む人はもっと水を大切に扱う必要があることになる。

個人でできることと政府レベルでできること

太平洋戦争は石油をめぐる戦争であったとされる。⁹ エネルギー資源に乏しい日本にとっては死活問題であった。それがいかに悲惨な結末を得たかを思い起こす必要がある。そして今後水を巡る戦争が起こるかもしれない。石油よりも水の方がもつ

と切実である。

対策は色々あるようだ。「節水の習慣」「節水の技術」「水インフラの整備」「淡水化技術の革新」など。後 2 者は国家事業のレベルであり、政府レベルで進められると期待される。ここでは個人として節水を意識することや排水を減らすことを考えたい。そこで筆者の最近の趣味をあげよう。水キムチである。



写真 4: 水キムチ (2023 年筆者撮影)

米を炊くのに無洗米を使っている人も多いだろうが、筆者のように精米を研ぐ人たちは、研ぎ汁を使って水キムチを作ることをお勧めする。研ぎ汁はそのまま捨てると、節水にも反し、海も汚すが、野菜の漬け汁にした水キムチは全てを食することができる。植物性乳酸菌を取ることもでき、体にも良い。SDGs の活動は厳しいことばかりではない。本来楽しい活動である。したがって続けられるのである。

おわりに

地球規模の課題はマクロとミクロのレベルが折り重なっている。国際的なプロジェクトに果敢に挑戦することも重要だが、個人でできることも見逃せない。意識改革のマインドを共有するというソフトな要素も実は大きな力になるだろう。筆者は個人レベルではあるが水への取り組みを継続していきたい。

主たる参考文献・引用データ (サイトは 2023/10/13 閲覧)

- 1: <https://www.jwa.or.jp/wp-content/uploads/2021/08/8ee720c0a056839b51a3084734aca5d7.pdf>
- 2: <https://www.cnn.co.jp/world/35113722.html>
- 3: <https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/faq/qa-14.html>
- 4: <https://data.unicef.org/resources/jmp-report-2023/>
- 5: https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_tk2_000020.html
- 6: https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2302/spe1_02.html
- 7: <https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/6-water/>
- 8: <https://population.un.org/wpp/Graphs/Probabilistic/POP/TOT/900>
- 9: 岩間敏 2006.「戦争と石油(1): 太平洋戦争編」『石油・天然ガスレビュー』40.1: 45-64.